

コロナに負けるな！

新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金、及び新型コロナウイルス感染症セーフティネット強化交付金を利用し、新型コロナウイルス感染症対策・物価高騰対策として、下記支援を行う予算を認めました。

- 住民税所得割非課税世帯に、1世帯5万円を給付
- 低所得の子育て世帯に1人5万円を給付
- 中学3年生までの児童手当・特例給付受給世帯に1人2万円を給付
- 高校生・大学生・専門学生の扶養者に対して、1人2万円を給付
- 公立保育園の遊具の更新
- 保育園・こども園・幼稚園・小中学校の給食材料費の高騰分を支援
- 市役所窓口セルフレジの導入
- 宿泊事業者支援第3弾（宿泊料の50%割引）

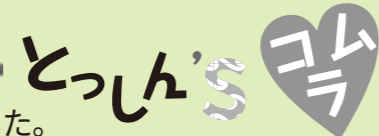
私が気になったのは、公立保育園の遊具の更新です。

コロナ禍が続く中、子どもたちが安全に外遊びを楽しめる環境を整備するために、公立保育園の遊具の更新をする予算です。コロナ感染症対策と保育園の遊具の更新は、少しこじつけのような気がします。

それ以上に、長船東保育園は、老朽化が激しくトイレの洋式化から除外された施設です。遊具の更新だけは、するのでしょうか。

長船東保育園に関しては、早期の計画が必要です。一番大事な計画を後回しにして、付随する改修計画をしたりしなかったりするの、おかしいのではないのでしょうか。

長船東保育園の今後については、しっかり議論していきたいと思います。



油杉子ども会で、七夕会をしました。

地域に子どもの声が響き、七夕飾りがたなびく様子は、本当に微笑ましいうれしい光景です。

なんといっても、今の願いは【STOP コロナ】ですが、子どもたちの願いは本当に可愛らしく、笑みがとまりません。

地域には、昔ながらの数々の習わしがあります。もうすぐ8月6日には『大小屋（おおごや）』といって迎え火をします。

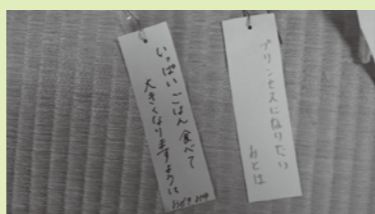
『ほ～とけさま、これみて、いらっしやれ』とみんなで歌って、わらの山に火をつけてお迎えします。

15日には、『万灯（まんとう）』といって送り火をします。

『ほ～とけさま、これみて、いなっしやれ』とみんなで歌って、竹に火を灯して、お送りします。

こんなことが普通に繋いで行けるこの地域が、私は大好きです。

大切にしたい伝統です。自慢の地域です。



本格的な夏がやって来ましたが、皆様にはお変わりございませんか。

今年も閉塞感に包まれた日々ですが、いかにコロナと共存していくかが今後は求められているのではないのでしょうか。恐れすぎず、侮らず、ウィズコロナで生活していくことが大切です。

辺りを見渡すと、田んぼがまるで緑のじゅうたんを敷き詰めたように輝いています。私はこの景色が大好きです。こんなステキなところに暮らしていることを、本当に自慢に思います。皆さまには本当にいつも、温かく見守っていただき、そして励ましていただき本当にありがとうございます。

皆さまに市政の場へと送り出させていただいて、9年が過ぎました。その間常に、皆様の声を市政に届けていきたい、その思いでいます。その思いは、今もこれからも変わることはありません。

引き続き力強いご支援の程、よろしくお願い申し上げます。



田植えが終わった美しい田園風景（磯上）

今回の私の一般質問は

1. 带状疱疹予防接種について
2. 吉井川下流の治水計画について

を取り上げさせていただきました。

1. 带状疱疹予防接種について

日本人成人の90%以上は、带状疱疹の原因となるウイルスが体内に潜伏することによってできる「抗体」を有しています。これは、多くの方が子どもの時に感染する水ぼうそうが、水痘・带状疱疹ウイルスの感染によるもので、感染したウイルスは、水ぼうそうが治った後も、症状を出さない状態で体内に潜み続けています。このように、子どもの時に水痘・带状疱疹ウイルスに感染した人は、このウイルスに対する免疫を持っていますが、獲得した免疫は年齢とともに弱まり、带状疱疹を発症してしまうリスクが高くなる傾向があるそうです。

50代から発症率が高くなり、80歳までに約3人に1人が带状疱疹を発症するといわれており、今後さらに増加することが確実視されています。コロナワクチンと带状疱疹の関連性は現在では不明ですが、コロナ禍での生活は带状疱疹をさらに増加させるに十分な根拠がありますともいわれています。本市もぜひ取り組んでみてはどうかと提案しました。

他市町村の助成状況

【秋田県能代市】 令和2年7月→50歳以上対象に4千円	【愛知県刈谷市】 令和4年4月→50歳以上に3千円	【愛知県名古屋市】 令和2年3月→50歳以上
【千葉県いすみ市】 令和4年4月→50歳以上に5千円	【富山県上市（かみいち）町】 令和4年3月→50歳以上に5千円	

くさかとしこの主張

いちばん働き盛りで、瀬戸内市を支えてくれている50歳以上の人に対するサポートがすこし少ないのではないのでしょうか。

50歳以上の人になにかあったら、家族は大ダメージです、市としても大ダメージです。

「一番必要とするところに、的確なサポートをする！」これが、行政の責務ではないのでしょうか。

岡山県では、まだ助成しているところはありません。ぜひ、瀬戸内市が一番に名乗りをあげて、働き盛りの人を守るべきだと考えます。

令和4年8月1日発行
発行責任者 瀬戸内市議会議員

くさか としこ

〒701-4273
瀬戸内市長船町磯上 569
TEL/FAX 0869-26-6420
携帯 TEL 090-5702-8336
ホームページ



<http://www.kusaka-toshiko.jp/>

一般質問のつづき！

2. 吉井川下流の治水計画について

くさかとしこの主張

磯上の西沖の水を油杉川に排水する西岡沖排水ポンプが、長船の衛生センターの隣にあるのをご存じでしょうか。70件45haの受益地の農業者から成る西岡沖排水組合が管理をしている排水ポンプです。

排水施設の規模は、37kwの能力のポンプが2台あり、排水量は、毎分60m³が2台です。このポンプは、平成元年7月 湛水（じんすい）防除事業で出来た排水ポンプです。

磯上の西沖は、磯上の西岡・山田・油杉・福里・そしてこれは長船町の時から約束だそうですが、備前市の水を一手に引き受けている、天然の貯水池です。最初のつくりは農業用の排水ポンプとしてできたものかもしれませんが、今では防災のポンプ以外の何物でもありません。

磯上西沖の貯水が自然に油杉川に排出できない時に、ポンプを稼働して強制的に油杉川に貯水を排出します。地域の内水排除を一手に引き受けている、防災の要の排水ポンプです。

このポンプ、実は大変な維持費がかかります。

- 保安手数料が年間8万円
- 通常の電気代が年間9万円
- ポンプ稼働料金が基本料金が通電時、月6万円、夏季の水害がいつあってもおかしくない7～10月に電気を入れて、24万円
- ポンプ稼働時の電気代がキロ10円、一回で1万円

トータルで、40万円以上の維持費がかかります。

それを受益地といわれる人だけでまかなっていますが、うちは田んぼや畑がつかってもちっとも支障ないので払わないという人をお願いして、このポンプが動かせないと磯上や福里地域の民家の財産と人命が守れないので協力をお願いして集金しています。

そして今市に、防災ポンプとして面倒を見てもらえるようにしっかりお願いをしているので、それまでの間どうか協力をお願いしますということで、受益者に無理をお願いして維持管理費を工面しているのが実情です。しかし、本当にこのポンプの維持費を田んぼや畑の受益地の人で維持しなければいけないのでしょうか。

これは防災ポンプではないでしょうか。市の責任をしっかり追及し、行政が面倒を見るべきだとしっかり訴えました。

市長からは、地元と協議をしていくと回答をいただくことが出来ました。

吉井川下流の全体的な問題として、排水ポンプの稼働や、要の豆田の排水ポンプの能力向上や、河川の浚渫等、様々な課題があります。

だからこそ、総合治水計画や吉井川下流域整備計画が進行している今こそ、瀬戸内市の様々な課題全てを、しっかりとその計画の中に入れ込んでもらって、総合的な治水を進めていただきたいとお願いしました。

これからも、実現するまで要望し続けます。



【西岡沖排水ポンプ】
37kwの能力のポンプが2基あり、排水量は1基毎分60m³です。



昭和51年の9月に台風17号の被害で、黄土色の泥海にどっぷり福里地区がつかった時の写真です。
ちなみに磯上もどっぷりつかったそうです。

【くさかとしこ】が見た瀬戸内市の行政！

それでは、行政報告をさせていただきます。

瀬戸内市は、令和3年2月に、【ゼロカーボンシティ宣言】をしています。

そして、国が2050年を目指しているゼロカーボンシティ実現を、瀬戸内市は2040年を目標としています。

その最初の事業として、長船衛生センターに太陽光パネルを設置する予算約4千万円を、認めました。

事業期間
5年間

総事業費：約39億円
(交付金：約8.5億円
市負担分：約4.2億円)

ゼロカーボンの背景

2015年に決定したパリ協定では「世界平均気温上昇を産業革命以前と比較して2℃より十分低く保ち、1.5℃に抑える」という目標が定められました。

それを受け、日本政府は「2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロ（＝ゼロカーボン）」にすることを表明しました。

瀬戸内市は、日本政府より早く2040年にゼロカーボンシティの実現に向けて、市全体の脱炭素への機運を高め、脱炭素に取り組むために、地域脱炭素移行・再エネ推進交付金に応募しました。

地域脱炭素移行・再エネ推進交付金（重点対策加速化事業）とは

環境省が意欲的な脱炭素の取組を行う地方公共団体等に対して支援する交付金。

補助率は概ね1/3～2/3で、事業期間は概ね5年間で、この期間内に500kw以上の再エネ発電設備を導入することが交付要件とされています。

時期	内容
事業 予定 期間	R5～R9年度 一般家庭への補助事業（太陽光発電設備、蓄電池、電気自動車、EVスタンド）
	R6～R8年度 民間事業者への補助事業（太陽光発電設備、EVスタンド）
	R4～R8年度 公共施設への太陽光発電設備等の導入
	R10年度～ 2040年ゼロカーボンの実現に向けて、重点対策加速化事業による脱炭素の取り組みを加速化していき、脱炭素ドミノを生み出す

くさかとしこの主張

まず、長船衛生センターについてですが、し尿処理場です。瀬戸内市のし尿処理は、牛窓・邑久は、西大寺の神崎衛生施設組合で処理してもらっています。長船だけは長船衛生センターで自前処理しています。

今後の瀬戸内市のし尿処理は、現在そのまま2系統の処理を続けるのか、岡山市に長船もお願いするのか、しっかり検討する必要があります。

その長船衛生センターに太陽光パネルを設置することについては、少し短絡的ではないのか心配になります。今後の計画をはっきりさせる前に、当面の節電目標が達成できるからと言って長船衛生センターに安易に太陽光パネルを設置しても大丈夫でしょうか。

市の説明は、長船衛生センターを集約化するようなことがあっても、近くに24時間稼働している下水処理場もあるので、問題ないと考えたとのことです。

そして、もう一つ心配なのは今後設置を進めていく公共施設のEVスタンドです。令和5年度から4年間をかけて、公共施設に6台設置する計画になっています。

EVスタンドは、使用料を取りにくい施設です。一方、維持管理費は必ず必要になります。今後EVスタンドの維持とその管理費について、しっかり議論していかなければいけないと考えています。